



平成25年証券アナリスト第1次試験（秋試験）

解答速報！

2013/10/10 現在

【経 済】

第1問（24点）

I

問1 C 問2 A 問3 D 問4 D 問5 C 問6 A 問7 C 問8 B
問9 D 問10 A 問11 B 問12 B

II

問1 A 問2 A

第2問（35点）

I

問1 A 問2 D 問3 C 問4 B 問5 D 問6 C 問7 B 問8 B
問9 B 問10 A 問11 D 問12 B 問13 D 問14 B

II

問1 E 問2 C

III

問1 D 問2 D 問3 A 問4 C

第3問（13点）

問1 B 問2 C 問3 A 問4 C 問5 D 問6 D 問7 A 問8 C
問9 D

第4問（18点）

I

問1 B 問2 B 問3 B 問4 C 問5 A

II

問1 D 問2 E 問3 C

III

問1 B 問2 A

この解答速報の著作権は、TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

なお、この解答速報は、TAC 独自の見解に基づくものであり、正解であることを保証するものではありません。また、後日情報を更新する場合がありますので、ご質問などの受付はいたしかねます。

この解答速報の著作権は、TAC（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。



2013 証券アナリスト 1 次試験（秋）

「経済」

今回の試験の出題レベルは、標準的であったといえます。正誤問題を詳細に見てみると、各選択肢の中には目新しく受験者を惑わせるような内容が含まれていますが、結局正解として選ぶべき選択肢は、これまでのアナリスト試験でも出題されている基本論点が中心となっています。また、計算問題に関しても、これまでも出題されたことがある内容であり、これらのうち基本的な計算問題をどれだけトレーニングして試験に臨んだかが、そのまま得点につながると考えられます。このように試験問題全体を見ると、これら基本問題から確実に得点できることが、合格の扉を開ける鍵となっているといえます。

問題の構成を見てみますと、過去の本試験と同じように、大問 4 問で構成されています。小問の出題数は、第 1 問 14 題、第 2 問 20 題、第 3 問 9 題、第 4 問 10 題と、今年の春試験と同じ全部で 53 題でした。また、各大問の配点比率は、満点 90 点のうち、第 1 問 24 点、第 2 問 35 点、第 3 問 13 点、第 4 問 18 点と、これも今年の春試験と同じです。

大問別に今回の試験の概要と特徴について見てみると、第 1 問（ミクロ経済学）では、消費者行動（最適消費点、代替効果・所得効果、労働供給、需要の価格弾力性など）、企業行動（等生産量曲線、独占と寡占）、完全競争市場（前提条件、需要曲線と供給曲線など）、市場の失敗、状態価格、ゲーム理論、情報の経済学などから出題されています。なお、計算問題は状態価格に関するものだけが出題されており、そのレベルは、標準的なものとなっています。

第 2 問（マクロ経済全般）では、国民経済計算、45 度線モデル（乗数効果）、IS-LM 分析、消費の決定理論（ケインズ型消費関数、ライフサイクル仮説、恒常所得仮説）、設備投資の決定理論（トービンの q 理論）、労働市場、貯蓄投資バランスなど、過去に出題された内容に沿った問題が多く出題されています。

第 3 問（金融経済）では、日本の金融市場（制度、変動要因、現在の状況など）、日本銀行と金融政策（制度、政策手段と政策運営、波及効果など）、財政（制度、状況、問題点など）など、これまでも出題されている知識の問題が中心となっています。

第 4 問（国際金融）では、購買力平価の計算、カバー付き金利平価に関する計算、ポートフォリオ・バランス・アプローチ、国際収支統計、経常収支の決定理論、外国為替市場介入、財政政策と為替レートといった、過去の出題内容とほぼ同じような問題となっています。

以上